

〈ケア〉を考える会 (第 170 回)

■日時：2023年12月3日(日) 13:30~15:00

■会場/参加方法

- ①「よりあい場あ (BAR) ねむの木」(倉敷市真備町箭田 5188/林道也宅)
- ② オンライン (Zoom) ……会場より発信します

■内容：読書対話 本を読んで対話します



『治したくない』 ひがし町診療所の日々』



(斉藤道雄:著 みすず書房 2020年5月刊)

とりあえず 69 頁~115 頁. この前後のページも含めてもよい

■懇親会：15:30~17:30……食べながら飲みながら語り合います(持ち込み歓迎)

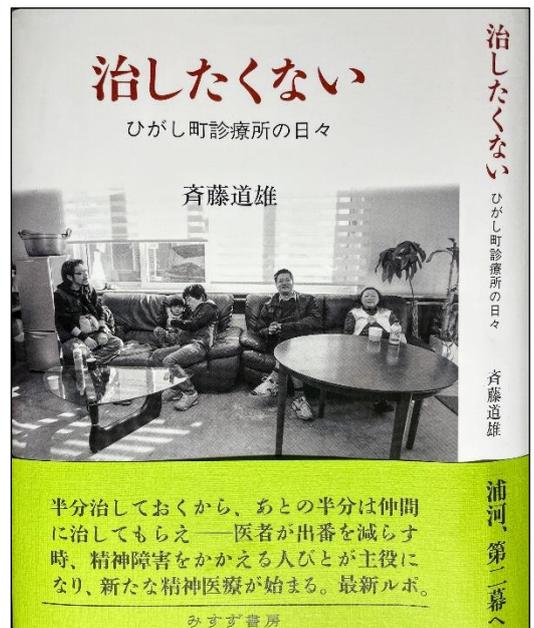
■参加：どなたでも参加できます。初参加歓迎。参加費無料(懇親会参加者は1000円)

■申込/問合せ：林道也まで ⇒ michi-care@outlook.jp 090-5366-1497

※会場参加者は申し込みが必要です

「治したくない」(88頁~から抜粋)

▼「治さない医者と言う紹介がありますけれども、正確には、いわゆる治すことばかりにこだわっていないというイメージです ▼精神病は医者だけに治してもらおうと思っても、薬だけで治そうと思っても、うまくいかない、仲間の中に入ってこそよくなるチャンスがある ▼「治す」とは、どういうことだろうか。 ▼精神障害者の多くは再発を繰り返す。それはなぜなのか。 ▼患者の抱える問題の全てが病気から来るものではない(…)病気のせいで見えにくくなっている、もっと大きな課題がそこにある ▼病気が「いったんよくなった」としても、そこから「人として生きていく」にはどうすればいいか。そこを考える。病気のことだけ考えていたら、患者は病気の世界を抜け出すことができない。再発を繰り返すだけ ▼病気のあふれるなにかかわらず、私たちは誰もが弱さや問題を抱えていて、なおかつ日々をどう過ごすか、どう生きるかを考えなければならない。そこを一緒に考えるところから始めようというのである。 ▼病気以外にも、暮らしのうえでの様々な問題を抱えている。(…) お金がない(…) 人間としての弱さ(…)。暮らしが整えば病気も落ち着いてくる。 ▼そこで大事なものは、自分を語ることだった。 ▼病気を語るのではなく、自分の「弱さや課題」を語る。そういう問題だらけの自分を受け入れ、自分と和解したところで、助けてほしいと言えるようになった時、人は変わることができる。誰もがそうなるわけではなく、またできるわけでもないが、そこに「いわゆる治すこと」とは別の道筋が開けている。



■おたがいの言葉を手がかりに考える時間をもつこと、確かめながらゆっくりと考える時間を共にし、分け合う。

「考え」でなく、「考え方」をお互い共有してゆく。

対話には結論はありません。

プロセスをゆたかにできなくては。

(長田弘『なつかしい時間』P.191)

■わたしたちはじぶんのいのちが他のいのちとの交換のなかにあることを知らされる。

(鷲田清一『老いの空白』P.227)

〈ケア〉を考える会 Zoom ミーティング

▼ミーティングID ⇒ 823 8391 6541

▼パスコード ⇒ care117

▼URL ⇒ <https://us02web.zoom.us/j/82383916541?pwd=aVhlZSttMTdLTkxvYWZmS3dvSWZ3Zz09>